

2010.12.14

千葉県地域リハ協議会

# 香取海匝地域リハビリテーション広域支援センター報告

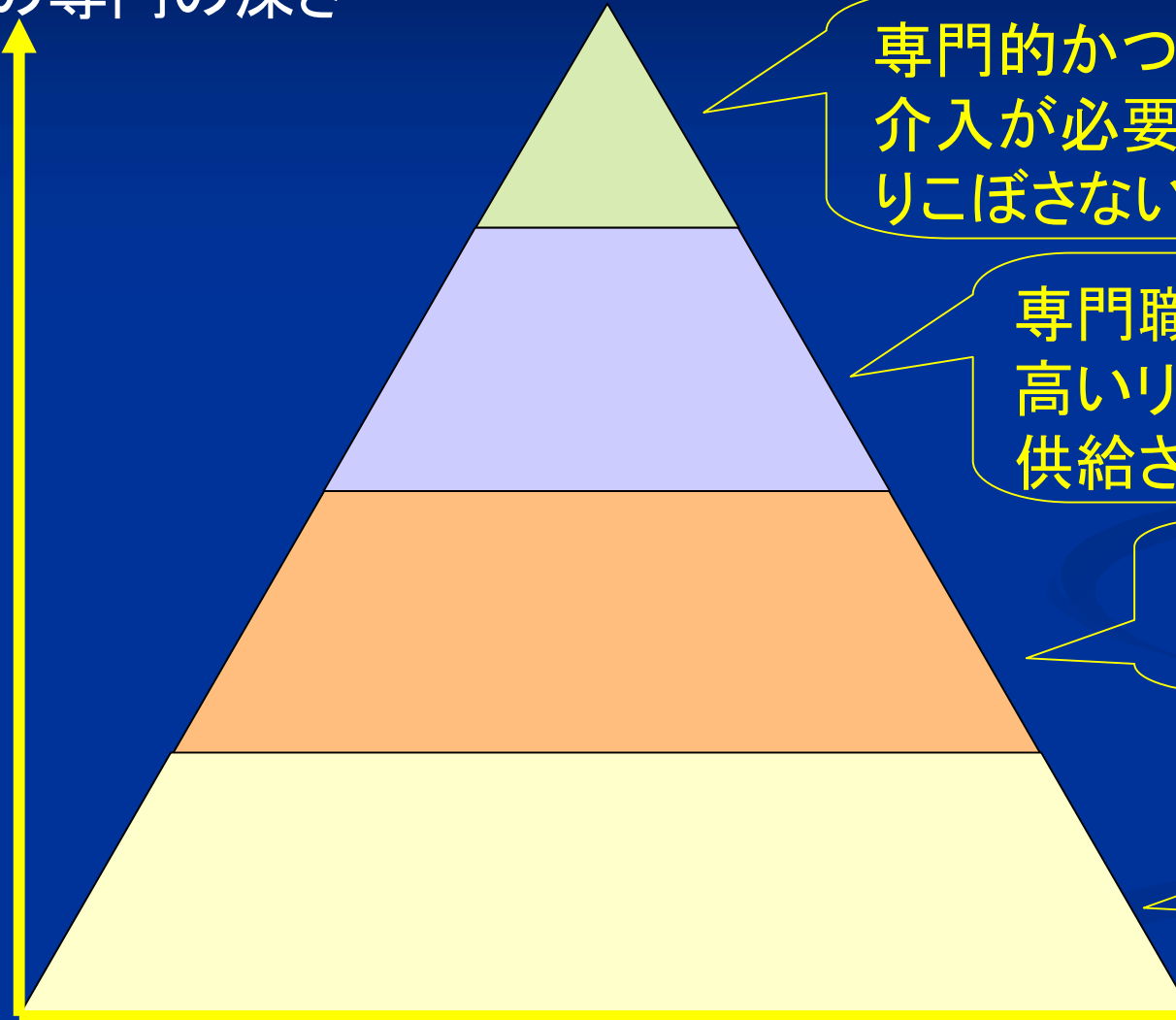
国保 旭中央病院  
リハビリテーション科 部長

藤本 幹雄

# 香取海匠地域が目指す地域リハ

(一般に抜け落ちているのは一番上と一番下ではないか?)

リハの専門の深さ



専門的かつ特殊なりハ  
介入が必要なケースを取りこぼさないこと

専門職による質の  
高いリハが十分に  
供給されること

専門職以外による  
効率的なりハケア

家族・患者自身に  
よるリハ活動

リハの裾野の広さ

# 香取海匝地域の地域リハ推進のポイント

フォーマルなサービスにおけるリハの充実・効率化  
(デイサービスのスタッフに集団運動訓練を指導するなど)

フォーマルなシステムに頼らない部分でのリハの啓蒙  
(家族・障害者自身への啓蒙, 指導など)

既存のシステムで保証されているリハ介入では不十分であることを共通認識とする

まずは指導的な人材を多く発掘するところから

# 「既存のシステムで保証されているリハ介入では不十分」の意味

各国の脳卒中患者の活動時間 \*生活時間中の割合

DeWeerdt 2000

ベルギー リハに45%

スイス リハに27%

Bernhardt 2004

オーストラリアの急性期ユニット

中～高度の活動 13%

ベッド外 53%

麻痺側上肢の動き 33%

軽症者の歩行 11%

日本

?

急性期から社会生活期までの全てにわたって不足しているのは確か

# 千葉県香取海匝地域の特徴

## 地域環境

- ・高い高齢化率
- ・経済水準は高くない
- ・産業が少ない

リハが必要な状況だと知らないままに寝たきりになった

通所リハ・訪問リハを利用したいが空きがない

経済的に厳しいので制度を利用できない

## 医療・福祉環境

- ・リハ専門職の不足
- ・リハ関連の医療資源の不足
- ・リハ関連の介護資源の不足

都市型の地域リハだけでなくCBRの発想も必要

# CBRとは

WHO1981

障害者自身やその家族，その地域社会の中の既存の資源に入り込み，利用し，その上に構築されたアプローチ

WHO・UNESCO・ILO 1994

CBRとは，地域開発におけるすべての障害者のためのリハビリテーション，機会の均等，社会への統合のための戦略である。CBRは障害者自身，家族，地域社会の共同の運動，そして適切な保健，教育，職業，社会サービスによって実施される。

# 地域リハビリテーション ≠ CBR

(日本における地域リハの定義  
地域リハビリテーションとは、障害のある人々や高齢者及びその家族が住み慣れたところで、そこに住む人々とともに、安全に、いきいきとした生活が送れるように、医療や保健、福祉と生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動のすべてをいいます。)

# (発展途上国での) CBRのシステム

中央  
州・地方  
地域

Intermediate Supervisor

地域リハ専門職・地域の医師

Local Supervisor

Local Supervisor

保健・福祉職・教員等

Trainer

Trainer

Trainer

Trainer

障害者・家族・ボランティア



# CBRも参考にした地域リハシステム

「地域リハビリテーション推進のための指針」

県リハビリテーション支援センター

地域

地域リハビリテーション広域支援センター

リハ職

リハ職

保健・福祉職

患者・高齢者・家族・障害者等

保健・福祉職

患者・高齢者・家族・障害者等

リハ職

リハ職

# 香取海匠地域の地域リハのヴィジョン

現状

リハ専門職の充実

周辺職種への啓蒙

行政との連携

職業リハの推進

NPO・ボランティアの充実

ピアサポートの充実

最初の課題:リハ専門職の量・質

医療

福祉

行政

地域社会

障害者自身



## リハ職種支援に関するManifesto (2010/01/30)

リハ職種の生涯学習を支援するために、香取海匝地域リハビリテーション連絡研究会を設立します。

地域内のリハ職種の交流を深め、悩んだ時に相談できる人間関係を作ることを支援します。

地域全体で知識や技術を共有するために、機関誌を発行し、リハ職種が勤務する全ての施設に届けます。

広域支援センターの枠にとらわれず、地区ぐるみでリハの発展を進めることを基本戦略とします。

# Manifesto実行状況

香取海匝地域リハビリテーション連絡研究会を設立しました。

会誌を発行し、各施設に届けました。

旭中央病院では新人勉強会等を開放しました。

他の病院・施設主催の研修会も積極的に広報されています。

広域支援センター研修会を一部他の病院・施設に委託しました。

障害者の交流、社会参加を支援する「和希楽会」を結成しました。

多施設共同でのモデルバンクの構想を計画しました。

# Manifestoの延長線上にある課題

教育活動(勉強会の開放やその論文化等)を多施設に広げる.

リハ技師以外の職種をターゲットにした活動の充実.

行政の参加.

職業リハ等に関する企業等の啓蒙.

和希楽会・モデルバンク等の成功.

# 平成22年度事業報告

- ・研修会4回(11月現在・予定を含む)
- ・実地指導(問題点に関する意見交換や名刺交換会を中心に)
- ・地域リハ連絡協議会(名刺交換会を中心に)
- ・和希楽会イベント(障害者の交流, 活動している障害者団体の広報・紹介, 障害者のサークル活動等に関するマッチング)
- ・リハ資源調査
- ・(広域支援センターの枠ではないが)

各職種に対する講演活動...施設での効率的な介入や障害者自身への啓蒙に重点をおいたもの